



会長挨拶
研究校紹介（北設支部）
私の研究（豊橋支部）
学校自慢（西尾支部・田原支部）
支部トピックス（豊田支部・豊川支部）
教室の窓から（安城支部）
私のコレクション（岡崎支部）
定期総会・教育講演会
部会・委員会だより
教育随想





三河教育の不易の部分とは

三河教育研究会 会長 水藤 彰 啓

風薫る五月十六日に、蒲郡市並びに蒲郡市教育委員会の深いご理解のもとで、蒲郡市民会館において、愛知県教育委員会委員 大須賀憲太様、同じく委員 広沢憲治様、蒲郡市長 稲葉正吉様、愛知県議会議員 飛田常年様、三河教育懇談会顧問 青木宏氏様をはじめ、大変多くのご来賓の皆様のご臨席のもと、平成三十三年度三河教育研究会定期総会を盛会裏に終えることができました。心から厚くお礼申し上げます。

三河教育研究会は、昭和三十六年五月に発足し、今年で五十八年目の活動に入ります。その間、三河小中学校長会、愛知教育文化振興会との連携のもと、多くの先輩方のためまぬ努力によって、確かな実績と伝統が築かれ、今日までつながれてきました。三河の全小中学校の約一万二千人の先生方が身銭を切って自ら研修に取り組もうとするこの組織は、全

国的に見ても大変意義深く価値のあるものです。「三河のすべての子どもたちに、三河の教師らによる優れた教育を保証したい」という発足当時の先人の方々が、この三河教育研究会に託した三河教育にかける熱き思いを、更に次代へとつなげていかなければならないと考えております。

さて、人工知能の発達をはじめとして、ここ数年を見ても、世の中は急速に変化してまいりました。現在の小中学生が大人になる頃には、今存在する仕事（職業）の半分近くは、AIによって行われるとも言われていますし、子どもたちの将来の夢の上位に、ユーチューバーが入っていると聞いて、大変驚きました。では、未来を担う子どもたちに、どのような力をつければよいのか。それを考える視点としての一つ目は、やはり、激動の世の中をたくましく生き抜き、未来を切り拓

く、変化に対応していくことでしょう。しかし、それだけでは足りない、危険ではないかという心配があります。二つ目の視点としては、これまで先人たちが築き上げた「不易」の部分があれば、薄っぺらな教育になってしまっているのではないかと思います。変化に合わせるだけではなく、人としての生き方を育てるという、教育の根幹の部分は、世の中が変わっても、いえ、急激に変わる世の中だからこそ、いっそう大切にしなければならぬものではないでしょうか。

蒲郡市には、苦学して教職の道を歩まれた金沢嘉一先生がいらっしゃいます。今年は金沢先生の生誕一〇〇年にあたります。先生は「子どもを人間として大事にする教育とは、もって生まれた天性を十分に伸ばして、本当に生きがいのある人生が送れるようにしてやることです。人間にくずはありません。それぞれの人

間の長所を見つけ出して、それを十分に伸ばすようにしてやらなければなりません。これが親と教師に課せられた責任です。」とおっしゃっています。「流行」の部分、目まぐるしく訪れる教育改革の波であるならば、「不易」の部分は「子どもたちのよりよい人格形成」が最も基本となるべきものです。それを指導実践する場の中心は、やはり「授業」ではないでしょうか。

「子どもを中心に据え」「子ども先にある」で授業を構想する三河の教育の「不易」の部分はこれからも三河教育研究会として最も大切にしなければならぬものと考えます。本部事業では本年度も先生方が共に学び合うことを目的として、「授業力養成講座」を行う計画であります。三河各地の先生方と共に「いかに授業で子どもを育てるか」を学んでいただくことを願っています。

三河教育研究会は、今後とも、三河小中学校長会、愛知教育文化振興会との絆を深め、三河教育の充実・発展のために精一杯力を尽くす覚悟です。そして、発足当時の諸先輩の熱き想いを、われわれ会員一同がもう一度振り返り、発足の原点である部会・委員会の更なる充実を図るために、会員の皆様お一人お一人の主体的な取組を切に願いたいと思います。

#

花ノ木から世界へ

西尾市立花ノ木小学校

本校の正門前の交差点から校舎の方を眺めると、ちょうど真ん中に一体の少女の像があります。その像は、両手を大きく広げ、やや上向きに空を見上げています。像の下には、緑色の文字で「花ノ木から世界へ」と書かれ、裏には「一九九八・八・三」の文字が刻まれています。

本校の英語学習は、平成八年度、当時の文部省から指定を受け、教育課程の研究開発を行うことから始まりました。「世界のひととともに生きる子をめざしてーワールド学習と英語学習の設定とその展開ー」をテーマとして、国際理解教育の研究が進められました。教科としての「英語科」を全学年週一時間設定し、英



「花ノ木から世界へ」の像

語に慣れ親しむ学習の在り方を追究しました。国際理解教育を進め、多くの外国人が花小を訪れ、多様な活動が展開されました。

二十二年経った現在、本校は外国籍児童が多く、国際色豊かな学校となっています。全学年で英語の授業が行われ、本校独自の英語授業「花小プラン」は、外国語科への移行に備え、新学習指導要領に基づいた新しいプランへ生まれ変わろうと研究が進んでいます。平成九年から続く放送式英語「イングリッシュタイム」では、朝から元気な子どもたちの声が校舎中に響き渡ります。地域からも長年支えられており、地域英語ボランティアの方々が授業に入って担任を助けてくださいます。なかには、本校で英語を学んだ卒業生という方に出会うことも珍しくあります。校区には英語に携わる方も多くいらっしゃいます。

「花小で英語を学び、世界へ羽ばたいてほしい」。この一体の少女像に、当時の職員、そして地域の方々の力強い意志を感じます。「花ノ木から世界へ」。その精神は、今も花小に脈々と受け継がれています。

(文責・江坂 由紀)

学校白慢



大先輩に学ぶ

ふるさと学習

田原市立高松小学校

本校は、児童数八十三名の小規模校ですが、本年度創立一四五年を迎えた歴史ある学校です。渥美半島のはば中央、太平洋からは約八百メートルという位置にあり、海、山、田畑や花の栽培ハウスに囲まれた環境のよい落ち着いた地域となっています。

本校では現在、「ふるさと学習」に力を入れていきます。特に、本校出身の大先輩である二人の「近藤」氏に学び、ふるさとを思う心を育てています。

一人は近藤寿市郎翁です。渥美半島は今でこそ農業王国となっていますが、五十年ほど前までは、大勢の農民が干ばつによる水不足に苦しめられる地域でした。翁は、豊川用水路建設構想を提唱し、荒れ地を劇的に変化させた人物です。毎年四年生が郷土の偉人として総合的な学習の時間で取り上げており、翁の偉業を学んでいます。さらに、翁の功績を風化させないようにと、翁の半生を劇化し、学芸会で地域の人たちに発信する取組も行っています。

もう一人の「近藤」氏は、キルト作家として日本中に名を馳せ、平成二十三年に亡くなられた近藤真弓さんです。毎年六年生が学習しています。真弓さんと親交が深かった校区の方から、生前のお話を聞いたり、実際にキルト体験をしたりすることができています。真弓さんから寄贈され、玄関に飾られているキルトの大作は、本校の自慢の一つです。

子どもたちは、身近にこのような偉人が存在したことを誇りに思い、地域への愛着を深めています。今後も「ふるさと学習」を通して、地域を大切に思う子どもたちが育つことを願っています。

(文責・河合 恵子)



4年生が演じる創作劇「夢をつないだ豊川用水 ～近藤寿市郎物語～」

豊田支部

市教委との連携を図り、

「原点回帰」を目指す取組

豊田市教育研究会事務局

豊田市では、本年三月、「豊田市教職員多忙化解消プラン」が策定されました。ここでは、教員が最も時間をかけるべき「子どもと向き合う時間の確保」に向けて、業務改善に関する具体的な指針が示されました。すなわち、教員一人一人が、ワーク・ライフ・バランスを大切にしながら、健康的に教育活動に従事し、質の高い教育活動を進めていくことが求められています。これは、まさに、本研究会の目的に合致します。そこで、本年度は、「原点回帰」をスローガンに掲げ、市教委と連携しながら、多忙化解消を進めつつも、教員の力量向上のための研修は充



校務支援システムによる研修

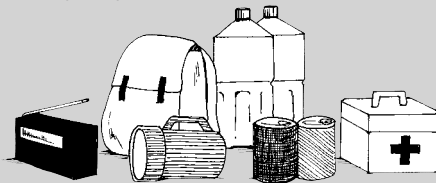
実させていくことにしました。その具体的な取組は二つです。

一つ目は、会合・研修・行事の削減です。校務支援システム（イントラネット）を最大限活用し、会合・研修は最小限にとどめていきます。また、本研究会が主催する行事について、市教委と相談し、創意工夫作品展の廃止を決めました。二つ目は、教育研究協議会に関わる授業実践の十分な活用です。

教育研究協議会で提案される実践の多くは、前年度に授業を行います。各教科部・教科外部で研修会を行ったり、研究紀要をまとめたりする時間を、教育研究協議会に関わる授業を参観する時間に充てていくことを考えています。この授業を参観した教員が、次年度の協議会に参加することになれば、市教委の示す「出張の削減」を実行しつつも、一層、研究協議が深まるはずですが、この取組は、本年度より、いくつかの部会で試行する予定です。

（文責・上郷中・岸野 亨）

支部トピックス



豊川支部

防災教育の充実と避難所としての

役割を果たすための準備

豊川市立桜木小学校

豊川市の東部に位置する本校は、目の前には桜ヶ丘ミュージアムがあり、少し足を延ばせば豊川稲荷にもお参りができるといふ市の文化の中心にある学校です。校区には比較的新しい住宅地が広がり、約四〇〇名の子どものうち、落ち着いた環境の中で学習することができています。とはいえ、どの子どもも安心して頑張れる環境を継続するには、備えが必要です。本校では、南海トラフ巨大地震を想定し、減災を目指した活動に取り組んでいます。

一つ目は、防災教育の充実です。子どもたち自身が、自分の身を守ることができるよう、シェイクアウト訓練を毎月行っています。ドンと来たらすべきこと、本震がおさまったらすべきことを、その瞬間に自分で考えて行動できるよう訓練を重ねています。また、学期ごとに防災週間を設定し、防災ゲームや読み物教材を通して、防災に対する知識・技能・態度を身につけています。そして、四年生児

童とその家族を対象とした防災キャンプを実施します。災害発生時にも「冷静に行動できる子」「助け合える子」をねらいにした宿泊型の避難所体験です。避難所に必要なルールを考えたり、家庭内DIGや間仕切り作りに取り組みます。この活動は、桜木おやじの会の方々を中心となって、運営してください。

二つ目は、本校が避難所になった時、その役割を果たすための準備を進めることです。「桜木小学校が避難所になった時のルール」を策定し、校区の防災訓練の折に、地域のみなさんにお知らせすることができました。「安心しました」という声を聞くことができ、少しずつですが、学校と地域との連携が深まっていることを感じています。

（文責・馬場 孝利）



危険箇所を確認しながらの避難訓練

教室の窓から

明和の町が好き、明和の人が好き、
明和で生きる自分が好きな子の育成

安城市立明和小学校

加藤かおる

明和は、豊かな自然、歴史、伝統文化、長年営まれている店や事業所などが数多く残る地域です。また、三世代同居が多く、子どもたちは町の宝として明るく素直に育っています。日々の生活の中で育まれてきた知恵と心を、学校の教育活動にも生かし、育てていきたいと考えています。そこで、本校は、生活科と総合的な学習の時間を中心に、明和の「人・もの・こと」から題材を掘り起こし、深い学びへと向かう授業を目指しています。

一年生は、生活科の学習で、校内の一角にある「トム・ソーヤの森」を題材とし、年間を通して季節の遊びを楽しみました。地域の方や祖父母に竹鉄砲の作り方を教えてもらったり、一緒に遊んだりしました。地域の保育園児を招待したときには、「園児に楽しんでもらいたい」という思いが、子どもたちの学びの原動力となりました。子どもたちは、森の木を利用した「的当て屋さん」や、森に咲いている草花を使った「香水屋さん」などを考えました。豊かな発想とアイデアで、みるみると魅力的な森に変身しました。

三年生は、総合的な学習の時間に、ブ



「トム・ソーヤの森」で学ぶ1年生

ドウを題材として学びを深めました。子どもたちは、見慣れている景色にもかかわらず、ブドウには気付いていませんでした。学区を探索し、田んぼの中に広がるブドウ畑を目にしたときの衝撃。減少していくブドウ農家の実態。他ならぬ「明和」のブドウのおいしさを広めるために、子どもたちは動き出しました。ブドウ農家に何度も足を運び、調査と体験から農家の苦勞を体感したり、JAでの聞き取り調査や広報活動をしたりして、主体的に学習を進めました。

身近な地域から、子どもたち自身が課題を見付け、それを解決するために友達や地域の人と協働的に学習を進めました。そして、今まで以上に、明和の町に愛着をもち、自己有用感を高めました。

今後も、地域とともに子どもを育て、見える景色を広げていきたいと思っています。

私のコレクション

時代とともに変化する録音機材たち

岡崎市立竜海中学校 杉坂 和俊

「もつとホルンが上手に演奏できるようにになりたい。」これは、私が中学生の時、大好きな吹奏楽部で部長になり、常に考えていたことです。

親や顧問の先生の協力があリ、オーケストラに所属するホルン奏者の先生に師事することができました。先生の素晴らしい音色、自由自在にホルンをコントロー

ルする姿に感動を覚えました。

「先生のような音を出したい」という強い思いから先生に許可をいただき、レッスンを録音させていただけることになりました。そこで、問題になったのが録音機材です。当時は、カセットテープのウォークマンが一世を風靡し、CDが一般に販売され始めた時期です。今のようにCD-Rも開発されておらず、持ち歩いて録音できるコンパクトな機材を知りませんでした。オーディオ専門店に相談にのっていただき、マイク付きのカセットテープのウォークマンがあることを知り、初めての録音機材を購入しました。ホルンのレッスンの中で先生の演奏とアドバイスを繰り返

返し聴きながら感動したことを今でもよく覚えています。繰り返し聴き過ぎ、カセットテープが伸びてしまいました。いつもの専門店に相談するとメタルテープという丈夫なテープがあることを教えていただきました。この時が機材やメディアによって特性があることを知り、録音機材の奥の深さにはまり込んでいくきっかけになりました。

その後は録音機材を、録音対応MDウォークマン、ポータブルWAVEレコーダー、パソコンを使いDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）と時代に合わせ機材を変えながら、授業や吹奏楽部の録音を行っていました。自分自身の演奏を録音することはなくなりましたが、生徒と共に作り出した音楽を録音し、演奏を磨くことが私の喜びです。



歴代の録音機材とメタルテープ

平成三十年度

定期総会〔報告〕

五月十六日（水） 蒲郡市民会館

五月十六日（水）、平成三十年度三河教育研究会定期総会・教育講演会が、約千名の会員と多くの来賓のご臨席を得て、盛大に行われました。

定期総会では、まず本年度の役員が承認され、水藤彰啓会長を中心とした新体制が発足しました。水藤会長はいさつの中で、教育界には時代の要請を受けた様々な流行に対応する必要があるながらも、教育の根幹である「子どもたちのよりよい人間形成」を指す不易の部分が不可欠であると、蒲郡市出身の金沢嘉一先生の言葉をもとに力強く述べられました。「子どもを中心に据え」「子ども先にありき」という三河の授業づくりを大切にした上で、「いかに授業で子どもを育てるか」を各部会、委員会および授業力養成講座で取り組むべき課題として述べられました。「三河のすべての子どもたちに、三河の教師らによる優れた教育を保証したい」という三河教育研究会の発足当時の熱き思いを会員一同が振り返り、一人一人が主体的に取り組んでいこうと語りかけられました。

就任のあいさつに続き、来賓を代表して、愛知県教育委員会委員の大須賀憲太様、蒲郡市長の稲葉正吉様からご祝辞をいただきました。

大須賀様からは、半世紀を超える歴史ある三河教育研究会が、学校教育の充実と発展に寄与しているとのことのお言葉をいただきました。そのうえで、新学習指導要領における主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善や英語プログラミング教育、教育課程のマネジメントの重要性についてご示唆いただきました。加えて、「学校」「家庭」「地域」が連携を深め、未来を担う子どもたちを育てるための研究を推進していくことへの期待のお言葉もいただきました。

稲葉様からは、三河教育研究会の教育現場のリーダーとして常に将来を見据えた先駆的な教育活動が、三河教育を牽引する大きな存在となっているとお言葉をいただきました。

その後、前年度の活動にご尽力いただきました前会長の白井博司先生、前副会長の伊藤映充先生、鈴木富士子先生に感謝状を贈呈いたしました。

それに続き、平成二十九年度の事業報告・決算報告、平成三十年度の事業計画案・予算案について、全ての議案が賛成多数で承認されました。

当日は、多くの皆様のご協力により、盛会裏に終えることができました。

教育講演会

演題 「カンボジアの未来を創る」

― バイヨン中学校開校五年の歩み ―

講師

日本国政府アンコール遺跡修復チーム団長補佐
カンボジア内務省登録NGO「JST」代表

チア・ノル氏

NPO法人オアシス

足立泰敏氏 杉浦 修氏
清水孝子氏 金田勝巳氏

○足立泰敏氏―NPO法人オアシス

本日、私も、カンボジアの未来を背負って立つ中学生の教育の一翼を担わせていただいている、そういった関係から「カンボジアの未来を創る」というタイトルをつけさせていただきました。「共に育つ」、これは私も含めてカンボジア、さらには広く世界、とりわけ子どもたち、青少年が「共に育つ」というようなことを考えるような場になることを祈念しております。

○杉浦 修氏―NPO法人オアシス
日本の子どもたちにも好評な簡易モーターを作る単元を実践しました。「どうして」「なぜ」を大事にし、子どもたちに発表させました。「北極はS極でできて、地球も大きな磁石」という説明に「なぜ磁石になるの?」と問い返され、一本取られた気分です。二時間のうち一時間を、簡易モーター作りにしました。日本では、回転したのは二割程度だったのですが、なんとバイヨン中学校では

九割以上、ほとんどの子が回転させました。手先が器用なんですね。

○清水孝子氏―NPO法人オアシス

カンボジアでは、音楽や美術が、授業として行われてないそうです。「アラビアを弾く」という目標をもち、鍵盤ハーモニカの演奏に取り組みました。授業の終わりに、みんなで教え合いながら、ほとんどの子ができるようにになりました。日本の曲「ふるさと」も歌いました。家で小さな弟や妹の世話をしている子ども、牛や鶏の世話、畑仕事をしている子どもの歌に、そうした日々の生活が見えてくるような気がしました。

○金田勝巳氏―NPO法人オアシス

「バイヨン中学校で運動会をする」「三年間で運動会ができるようになる」を目標に、体育の授業を充実させて、約束通り三年後に運動会ができました。

運動会に向けて、「ラジオ体操」「行進」から入りました。そして、「リレー」、カ

ンボジアの伝統的な種目の「綱引き」「ダンス」「棒押し」、こういった競技も運動会に入れました。子どもたちは、チームカラーのユニフォームで応援し、保護者も大喜びで応援に参加しました。

○チア・ノル氏

カンボジアというと、アンコール遺跡群が思い出されるでしょう。一九九二年にアンコールワットは世界遺産として登録されました。年間約五百万人の観光客が訪れる人気の観光名所です。

しかし、カンボジアには経済格差、特に農村群の貧困格差があり、同時に教育の格差があるのも現状です。カンボジアの一番の悲劇の時代は、ベトナム戦争に巻き込まれて、共産主義勢力が広がり、最終的に共産主義政権の指導の下、一九七五年、ポルポトという人物が首相になった頃から始まります。ポルポトは、世界に類を見ない原始共産主義を目指しました。原始共産主義とは、その国の紙幣、学校および宗教を廃止し、重工業をストップさせ、国民を強制的に農業に従事させることです。

その頃、私はまだ九歳でしたが、毎日過酷な労働をさせられました。当時、都市部に居住する者は、田舎の方に強制的に移住させられました。私の父は、医者だったので、理由もなく処刑されました。兄二人は、高校生だったのですが、アメリカのスパイにみなされて処刑されました。

私は一九七九年にふるさとに戻り、生きている母にだけ再会できました。母は、どうしても私だけは生きてほしいと願っていました。母は「日本に行きなさい。日本に行けば、お前にいい未来がきっと見つかる。ちゃんと幸せで暮らせる。行きなさい。」と勧めました。

一九八〇年にタイの中の難民キャンプを目指すことにしました。そして私は、一九八〇年九月二十三日、無事に日本に上陸したのです。私は、難民促進センターで日本語を習得するために、三か月間、学びました。私はまだ十三歳でした。運よく、私は、里親になってくれる方と出会い、高校を卒業するまで、ずっと面倒をみていただいたのです。

一九九四年、日本の大学卒業直後に日本政府からの依頼があり、私はその一員としてまたカンボジアに戻ることができました。私の仕事は何かというと、遺跡修復です。日本政府は、世界文化遺産を守ることに力を注いでいるからです。

私の現場には農村部から多くの作業員が携わっており、彼らの村に行ってみると、インフラ整備など何もありません。小学校さえありませんでした。私は日本に帰るたびに、お世話になった先生方にカンボジアの様子を話しました。そして、話を聞いてくださった先生方から資金援助をいただきながら、私は少しずつインフラ整備を整えるなど、カンボジアのために手伝いを始めました。子どもたちに何か学ばせれば、将来、

きっと何かを見つけ出すに違いないと考え、私は、小学校の建設に向けて、活動をしました。校舎の建設には私の里親からも協力が得られ、一九九八年に建てることができました。

このデータは、私のつくった小学校の退学者数です。二〇〇五年の時点で一年生は二百人。しかし、小学校六年生まで残っていたのは、六十五人しかいないのです。「なぜ中退が多いのか」をインタビューをするなどして、調べました。分かったことは、周辺に中学がないことでした。中学校に進学したら、十キロ以上も自転車走らせ、遠くまで通わなければなりません。それを理由に、学校を辞めてしまうケースが多いということが分かりました。そこで私は二〇一二年にバイヨン中学の創設を考えたのです。

カンボジアは今、失われた人財をどう育て、どうやったら国を再建できるかが大きな課題です。それには、やはり教育の環境を整えることが大切になってくるのだと思います。

バイヨン中学を創設し始めた時に、想像できなかったことは、州政府、カンボジア政府から「提供できる土地も、作る予算もない」と言われたことです。だから私は、自分が買った一万坪の土地を寄付しました。学校の建設費は、私が日本に来るたびに、様々な団体をお願いして創出し、二〇一三年にバイヨン中学を完成させることができました。

現在、生徒数は五百人。生徒たちの年

齢は、十二歳から十九歳まで、ばらばらです。なぜなら、中退した子どもたちが「もう一度勉強したい」と言えば、全部受け入れているからです。

私が支援している学校は、様々な日本人の方々に支援していただいているのです。けれど、実際は、まだまだ多くの教育施設や教育環境が充実していません。まず、バイヨン中学で人材を育成して、将来的には、もっともっと多くの子どもたちに教育を広げなければならないと思っています。

最後に、私は日本で教育を受けられ、幸せだと思っています。日本は、自分の将来を切り開いていける国ですから、本当に自分の第二の故郷と思っています。これからもカンボジアと日本が繋がり、友好関係を続けられるようにと願っています。

本日、講演の機会を与えてくださったことに本当に感謝しております。



平成三十年度 本部事業

生きる力を育成する三河教育

学び合い、学び続ける教員として

総務委員会

三河教育研究会（以下三教研と表記）は、今年度で五十八年目を迎えます。子どもの学びを中心に据えた教育活動を根柢とし、時代の思潮に応じた教育活動を追究してきました。

新学習指導要領が告示され、子どもの見方・考え方を働かせ、各教科・領域における資質・能力の育成が求められています。本会では、既に時代の要請に合わせた様々な提言がなされ、多くの成果をあげています。こうした三教研の取組は、教員が学び合い、学び続けてこそ継続され、高められていくものです。特にこれからの三河教育を担う中堅・若手教員の手によって継承されていきます。本年度も、主たる各分会・委員会の研修会・研究会において、魅力と実効性のある研修活動が計画されています。また、教育研究におけるミドルリーダーの養成を目的とした授業力養成講座を引き続き開催することになっています。皆様の積極的な参加を期待し、学びを各地域や各学校に広げていただきたいと思います。

三教研の取組や各学校で実践された学習指導案を三教研のホームページや広報「教育 みかわ」に多数掲載していきます。会員の皆様からの情報提供をお待ちしています。

アドレス：<http://www.sankyouden.jp/>

国語部会夏季研修会	8/7	豊田
国語部会書写実技講習会	7/27	岡崎
社会部会夏季研修会	8/3	岡崎
愛知県教育研究会小中学校部研究大会	8/8	安城
理科部会夏季研修会	8/7	知立
生活科部会夏季研修会	8/7	刈谷
音楽部会夏季研修会	8/7	岡崎
造形部会夏季研修会	8/3	岡崎
保健体育部会夏季研修会	8/8	岡崎
愛知県警察研究会協議大会（少壮幹部会）	10/31	岡崎
技術・家庭部会夏季研修会（中学校部会）	8/3	幸田
英語（外国語活動）部会夏季研修会	8/2	刈谷
特別活動部会夏季研修会	8/7	田原
特別支援教育部会夏季研修会	8/6	豊橋
愛知県養護教育研究大会	7/31	名古屋
総合的な学習部会夏季研修会	8/3	刈谷
愛知県学校図書館研究大会	8/22	安城
ICT活用研究会	8/3	新城
愛知県統計教育研究発表会・講演会	11/27	名古屋
愛知県へき地教育研究大会	10/23	知多
授業力養成講座Ⅰ（西三河）	8/21	岡崎
授業力養成講座Ⅰ（東三河）	8/22	豊川
授業力養成講座Ⅱ（西三河）	11/16	岡崎
授業力養成講座Ⅱ（西三河）	11/27	岡崎
授業力養成講座Ⅱ（西三河）	11/30	岡崎
授業力養成講座Ⅱ（東三河）	10/12	豊川
授業力養成講座Ⅱ（東三河）	10/30	豊川

部会・委員会だより

音楽

豊かに感じ 表現する子

ともに学び、ともに楽しむ

音楽の授業

音楽部会は、昨年度、蒲郡市において、愛知県小中学校音楽教育研究大会を開催しました。音楽が専門の先生だけでなく、すべての先生とともに音楽科の授業の在り方について考え、一年生から六年生までの全学年の魅力ある音楽科の授業を公開しました。

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められています。対話的な学びとは、児童・生徒同士の協働、教師や他の人たちの考え方を手掛かりに考えることなどを通して、自らの考えを広げ、深める学びを指します。

深い学びとは、音楽科の特性に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学びのことと記されています。

そこで、音楽部会では、ともに学び、ともに楽しむことを土台に、子どもたちの実態を捉えながら、音楽的な楽しさを

実感できる授業づくりを目指して、研修を深めていかなければいけないと考えています。

今年度の夏季研修会では、合唱指導や指揮法の講師としてご活躍されている塚田真夫先生をお迎えし、指揮について、実技演習を含めて学ぶ機会を計画しています。各地区より多くの先生にご参加いただき、よい交流の機会となることを期待しています。

○三河教育研究会音楽部会夏季研修会
・期日 平成三十年八月七日（火）
・会場 岡崎市シビックセンター
コンサートホール コロナネット

・時間 十三時～十五時三十分（予定）
・講演 「指揮法の基本と実践」
塚田 真夫 先生

音楽部会夏季研修会への期待

岡崎市立奥殿小学校 後藤 三奈
夏季研修会は、創作活動の授業展開や評価の方法、合唱指揮法などについて実技を含めて学ぶ機会であり、また、三河地区よりお集まりの多くの先生方と交流することもできます。今年度の指揮法研修も、充実した夏休みの一日となることを楽しみにしています。

養護教諭

養護教諭の資質向上と

健康教育の推進

養護教諭部会は、四月十八日、附属岡崎小学校で開催された第一回委員会議において研究主題と研究テーマを確認しました。研究主題は引き続き「養護教諭の資質向上と健康教育の推進」とし、研究テーマを「養護教諭が取り組むがん教育の在り方」としました。今年度より新たな研究テーマを基に、研究一年次を迎えました。平成三十一年度で開催される夏季研修会を実りある大会にするため、研究を推進していきたいと考えています。また、大会に向けての準備も進めています。

本年度から、がん教育を推進していくために必要なプログラム案を作成し、実践につなげたいと考えています。そこで、養護教諭を対象として、がんに対する知識、がん教育を行うにあたっての意識、教育環境の整備や問題点などの調査を計画しています。調査集計、分析をすることによって、三河地区養護教諭のがん教育に対する意識や取組の様子などを把握し、課題を明らかにしていきたいと思っています。

夏季研修会として、七月に名古屋市の日本特殊陶業市民会館で「第二十九回愛

知県養護教育研究大会」を開催します。大会主題は、「未来に輝く子どもをはぐくむ養護教諭の専門性と役割の追究」です。研究発表では、知多南地区と豊川地区の養護教諭部会の先生が、今までの実践について発表をされます。研究実践を学ぶ機会にしていきたいと思っています。各支部から多くの先生方の参加をお待ちしています。

第二十九回

愛知県養護教育研究大会のご案内

豊橋市立磯辺小学校 安藤 智子

本年度、第二十九回愛知県養護教育研究大会が、次のような日程・内容で開催されます。

- ・ 期日 平成三十年七月三十一日（火）
- ・ 日程 十時～十六時
- ・ 会場 日本特殊陶業市民会館
- ・ 内容

午前中は、開会行事に続き、知多南地区と豊川地区の研究発表があります。午後は、調査研究報告と大阪市立大空小学校初代校長の木村泰子先生の講演を行います。安城市立明和小学校長の酒井多香子先生による特別講話も行われます。

多くの先生方にご参加いただき、参加者にとって有意義な大会になることを願っています。

学校図書館

深い学びを創造し

豊かな心を育む 学校図書館

第五十五回

愛知県学校図書館研究大会のご案内

- ・ 期日 平成三十年八月二十二日（水）
- ・ 会場 安城市市民会館
- ・ 会場 安城市図書館
- （アンフォーレ）

・ 全体会
記念講演「本は不思議の扉」
講師 児童文学作家 富安 陽子 氏

・ 分科会

①～⑤

読書・学習情報センターとしての学校図書館での学び

（小学校・中学校・高等学校）

⑥～⑧ ワークショップ

1 絵本のひみつ

― 絵本の知と読み聞かせの心 ―

2 学校図書館と公共図書館の連携

携から見えてきた「学びの未来」

3 絵本で遊んじゃおう！

― 読み聞かせの効果とコツを学ぼう ―

〈本年度の活動〉

○第四十一回全国学校図書館研究大会

新学習指導要領の趣旨を推進し、時代の変化に対応したこれからの学校図書館の在り方について、全国各地の実践や研

究を学び、参加者相互の理解と交流を深めます。期日や会場につきましては、次のようになっています。

- ・ 期日 平成三十年八月八日～十日
- ・ 会場 富山会場（富山県民会館）
- ・ 会場 高岡会場（ウイング・ウイング高岡）

日程の詳細につきましては、六月中旬に発表される予定となっています。

○読書感想文コンクール審査会

地区の代表に選ばれた読書感想文の審査を十月中旬に行います。

○研究紀要と読書感想文集の発刊

本年度の研究大会での発表と各種審査会の結果などについてまとめた研究紀要と、読書感想文集「天空」を年度末に発刊する予定です。

読書感想文コンクールへの

積極的なご参加を

安城市立文山小学校 稲垣 智子

本年度も、読書感想文コンクールが開催されます。毎年、審査しながらすてきな感想文に出合えることを楽しみにしています。特に、制限枚数いっぱい、最後の行まで書ききった感想文からは、子どもたちのその本への愛情を感じます。この読書感想文コンクールをきっかけとして、読書好きの子どもが一人でも増えることを願っています。各学校で積極的に呼びかけていただきたいと思います。よろしく願います。

平成三十年度

三河教育研究会役員

会長 蒲郡 形原中 水藤彰啓
副会長 西尾 西尾中 加藤宏基

顧問 豊橋 花田小 佐藤淑乃
豊橋 青陵中 浅井英雄
安城 三河安城小 水野勝通
會計監査 豊橋 南部中 宮崎正道

幹事 みよし 黒笹小 吉野嘉郎

庶務 岡崎 甲山中 柵木智幸
碧南 南中 川隅義孝
愛教大 附屬岡崎小 柴田昌一
愛教大 附屬岡崎中 鈴木佳樹
愛教大 附屬特別支援 松平貴圭
愛教大 附屬岡崎中 清水孝治
愛教大 附屬特別支援 岡田筑太
北設 東栄中 岡田守

會計 刈谷 刈谷 高井規行
刈谷 かりがね小 澤田佳子
愛教大 附屬岡崎小 高井規行

◆評議員 (部会長)

国語 刈谷 かりがね小 澤田佳子
社会 豊田 山之手小 萩原孝
算数 安城 安城南部小 久永克彦
理科 岡崎 岩津小 小島寛史

(各種研究委員会委員長)

学習情報 豊川 御油小 清水洋一
学校図書館 安城 作野小 石原紳
統計教育 岡崎 六ッ美南郡小 大西和夫
生徒指導 岡崎 六ッ美中 中垣明道
へき地教育 豊田 冷田小 鈴木正志

(支部長)

豊橋 大村小 谷野正明
豊川 桜木小 馬場孝利
蒲郡 中 伊壁谷雄二
新設 舟着小 玉越通介
北設 六連小 原田義久
岡崎 東栄小 加藤勝巳
碧南 中央中 小島真由子
刈谷 亀城小 池田滝也
豊田 上郷中 伊藤俊満
安城 安城西中 片岡孝晃
西尾 横須賀小 榊原孝宏

知立 知立中 橋本博司
高浜 南中 箕浦博夫
みよし 三好丘中 花井伸
幸田 荻谷小 丹羽雅英

◆常任委員

総務委員会

委員長 岡崎 梅園小 高須亮
副委員長 愛教大 附屬岡崎小 柴田昌一
委員 安城 梨の里小 太田忠宏

豊川 佐久島中 杉浦康
愛教大 附屬岡崎小 神門大知
愛教大 附屬岡崎小 高井規行

広報委員会
委員長 豊橋 青陵中 浅井英雄
副委員長 愛教大 附屬特別支援 松平貴圭
委員 蒲郡 塩津小 稲吉久美子

調査委員会
委員長 西尾 西尾中 加藤宏基
副委員長 豊橋 花田小 佐藤淑乃
委員 愛教大 附屬岡崎中 鈴木佳樹

委員 豊田 浄水小 仲田英成
委員 刈谷 富士松北小 大森章好
委員 愛教大 附屬岡崎中 清水孝治

愛教大 附屬岡崎中 山本泰弘

教育随想 (83)

「先生、あの頃は、学校に通うのが毎日楽しくて仕方ありませんでした。先生が作ってくださった学級通信は、今でも大切にしています。」

街で出会った四十年前の教え子は、母として、職業人として、そして人として立派に成長していました。このような教え子の姿を見られることは、教師冥利に尽きる、の一言です。

当時の私は、恥ずかしながら情熱だけを武器に、毎日を勝負していました。とても胸を張れる教師ではありませんでしたが、子どものために少しでもよい授業をしようと悪戦苦闘していた日々を懐かしく思い出しました。

彼女が小学生であった昭和五十年代と比べると、学校や社会の様相もずいぶん変わりました。四十五人学級の四十人となり、中には三十五人学級の学年もあります。総合的な学習の時間や外国語活動も導入されました。また、スクールカウンセラーや特別支援補助員、情報教育支援員など、市独自に、様々な立場の職員を配置するようになりました。保護者や地域の方がボランティアとして日々来校されることが

当たり前の風景となっています。この四月には、市内に初の「子ども食堂」がオープンし、地域での教育支援である「みよし未来塾」も盛況です。

そして現在、グローバル化や情報化の急速な進展、人口知能の飛躍的な進化などに歩調を合わせるかのように、教育を取り巻く環境も、大きくその姿を変えています。そんな中、学習指導要領が改訂

変わらないもの



みよし市教育委員会 教育長
今瀬 良江

なりません。果たして、四十年後の学校はどのような姿になっているでしょうか。しかし、どのような時代・社会であっても願うことは、教室は子どもも教師も成長する生きた場所であってほしいということです。

大村はま先生は、著書『教えながら教えられるながら』の中で、「教室は生徒を教えながら、教師である私も生徒に教えられながら、生徒が進むとともに、私もその日、何らかの意味で教師として成長する、そういう場所でなければならぬ。(中略)教師である私が何も成長しないで止まっているのに、子どもたちだけを成長させるといふわけにはいかない。」と述べています。

子どもと共に成長していくこう、学び続けようというこの教えは、三河の先生方がこれまで何十年も変わらず大切にしてきた、子どもたちのために、日々研鑽を重ね、成長を目指す姿と通ずるものがあります。

教師が、教師としての成長、人としての成長を目指し続ける限り、いつの時代であつても、街で出会う教え子たちから、「学校は楽しかった」という言葉を聞くことができると確信しています。

編集後記

「挑戦しつづけ、実践にこだわり、創造に燃え、適切な『代謝』を行っている会社を『生きている会社』と私は呼んでいる。『挑戦↓実践↓創造↓代謝』の『いい循環』が回っているのが『生きている会社』の特徴だ。」

ある経営コンサルタントのことばが目に残りました。会社を学級や学校、組織などに置き換えて、常に振り返り、新たな方向を探っていくことの重要性を思い知らされます。

今夏も各部会・委員会では、魅力と実効性のある研究大会や研修会が開催されます。引き継いでいくことと新たな拡がりを得つつ、地域を越え、世代を越えて語り合う機会としていきましょう。また、三河教育研究会のホームページが刷新されて三年目を迎えます。本年度より、研究大会・研修会計画の学校配付を取りやめ、ホームページに掲載していくことになりました。学習指導案の掲載による研究成果のさらなる活用も目指していきます。

表紙の写真

「知立まつりで輝く子どもたち」
撮影 知立市立知立西小学校

永田 基子 先生

カット

愛知教育大学附属特別支援学校

神谷 宜欣 先生